

1 さて、取税人や罪人たちが皆、イエスの話を聞こうとして近寄ってきた。

2 人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と言っていた。

3 そこでイエスは彼らに、この譬をお話しになった、

4 「あなたがたのうち、百匹の羊を持つている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなつた一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

5 そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、

6 家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなつた羊を見つければ』と

『わたし』と

7 よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。

8 また、ある女が銀貨十枚を持っていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を歩き、それを見つかるまでは注意深く捜さないであろうか。

9 そして、見つけたなら、女だちや近所の女たちを呼び集めて、『わたしと一緒に喜んでください。なくした銀貨が見つかりましたから』と

『わたし』と

10 よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであろう。』

11 また言われた、「ある人に、ふたりのむすこがあった。

12 ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください』。そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。

13 それから幾日もたないうちに、弟は自分のものを全部とりまとめて遠い所へ行き、そこで放蕩に身をもちくずして財産を使い果した。

14 何もかも浪費してしまつたのち、その地方にひどいききんがあつたので、彼は食べることも窮しはじめた。

15 そこで、その地方のある住民のところに行つて身を寄せたところが、その人は彼を畑にやつて豚を飼わせた。

16 彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいと思うほどであつたが、何もくれる人はなかつた。

17 そこで彼は本心に立ちかえて言つた、『父のところには食物のあり余つてゐる雇人が大ぜいゐるのに、わたしはここで飢えて死のうとしてゐる。

18 立つて、父のところへ帰つて、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかつて、罪を犯しました。

19 もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください』。

20 そこで立つて、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたので、父は彼をみとめ、哀れに思つて走り寄り、その首をだいて接吻した。

21 むすこは父に言つた、『父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかつて、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません』。

22 しかし父は僕たちに言いつけた、『さあ、早く、最上の着物を出してきてこの子に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさい。

23 また、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しむうではないか。

24 このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなつていたのに見つかったのだから』。それから祝宴がはじまつた。

25 ところが、兄は畑にいたが、帰つてきて家に近づくと、音楽や踊りの音が聞えたので、

26 ひとりりの僕を呼んで、『いつたい、これは何事なのか』と尋ねた。

27 僕は答えた、『あなたのご兄弟がお帰りになりました。無事に迎えたというので、父上が肥えた子牛をほふらせなかつたのです』。

28 兄はおこつて家にはいろうとしなかつたので、父が出てきてなだめると、

29 兄は父にむかつて言つた、『わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかつたのに、友だちと楽しむために子やぎ一匹も下さつたことはありません。

30 それなのに、遊女どもと一緒になつて、あなたの身代を食いつぶしたこのあなたの子が帰つてくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました』。

31 すると父は言つた、『子よ、あなたはいつもわたしと一緒にゐるし、またわたしのものは全部あなたのものだ。

32 しかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなつていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである』。

<sup>1</sup>イエスはまた、弟子たちに言われた、「ある金持のところにひとりの家令がいたが、彼は主人の財産を浪費している」と、告げ口をする者があった。

<sup>2</sup>そこで主人は彼を呼んで言った、『あなたについて聞いていることがあるが、あれはどうなのか。あなたの会計報告を出しなさい。もう家令をさせて置くわけにはいかないから。』

<sup>3</sup>この家令は心の中で思った、『どうしようか。主人がわたしの職を取り上げようとしている。土を掘るには力がないし、物ごいするのは恥ずかしい。』

<sup>4</sup>そうだ、わかった。こうしておけば、職をやめさせられる場合、人々がわたしをその家に迎えてくれるだろう。』

<sup>5</sup>それから彼は、主人の負債者をひとりびひとり呼び出して、初めの人に、『あなたは、わたしの主人にどれだけ負債がありますか』と尋ねた。

<sup>6</sup>『油百樽です』と答えた。そこで家令が言った、『ここにあなたの証書がある。すぐそこにすわって、五十樽と書き変えなさい。』

<sup>7</sup>次に、もうひとりに、『あなたの負債はどれだけですか』と尋ねると、『麦百石です』と答えた。これに対して、『ここに、あなたの証書があるが、八十石と書き変えなさい』と言った。

<sup>8</sup>ところが主人は、この不正な家令の利口なやり方をほめた。この世の子らはその時代に対しては、光の子らよりも利口である。

<sup>9</sup>またあなたがたに言うが、不正の富を用いても、自分のために友だちをつくるがよい。そうすれば、富が無くなった場合、あなたがたを永遠のすまいに迎えてくれるであろう。

<sup>10</sup>小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。

<sup>11</sup>だから、もしあなたがたが不正の富について忠実でなかったら、だれが真の富を任せるだろうか。

<sup>12</sup>また、もしほかの人のものについて忠実でなかったら、だれがあなたがたのものを与えてくれようか。

<sup>13</sup>どの僕でも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。』

14 欲の深いパリサイ人たちが、すべてこれらの言葉を聞いて、イエスをあざ笑った。  
15 そこで彼らにむかって言われた、「あなたがたは、人々の前で自分を正しいとする人たちである。しかし、神はあなたがたの心をご存じである。人々の間で尊ばれるものは、神のみまえでは忌みきらわれる。  
16 律法と預言者とはヨハネの時までのものである。それ以来、神の国が宣べ伝えられ、人々は皆これに突入している。  
17 しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の滅びる方が、もつとたやすい。  
18 すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うものであり、また、夫から出された女をめとる者も、姦淫を行うものである。

19 ある金持がいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。  
20 ところが、ラザロという貧乏人が全身でき物でおおわれ、この金持の玄関の前にすわり、  
21 その食卓から落ちるもので飢えをしのぐと望んでいた。その上、犬がきて彼のでき物をなめていた。  
22 この貧乏人がついに死に、御使たちに連れられてアブラハムのふところに送られた。金持も死んで葬られた。  
23 そして黄泉にいて苦しみながら、目をあげると、アブラハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見えただ。  
24 そこで声をあげて言った、『父、アブラハムよ、わたしをあわれんでください。ラザロをおつかわしになって、その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえています。』  
25 アブラハムが言った、『子よ、思い出すがよい。あなたは生前よいものを受け、ラザロの方は悪いものを受けた。しかし今ここでは、彼は慰められ、あなたは苦しきみもだえている。  
26 そればかりか、わたしたちとあなたがたの間には大きな淵がおいてあって、こちらからあなたがたの方へ渡るうと思ってもできないし、そこからわたしたちの方へ越えて来ることもできない。』  
27 そこで金持が言った、『父よ、ではお願いします。わたしの父の家へラザロをおつかわしてください。』  
28 わたしに五人の兄弟がいますので、こんな苦しい所へ来ることがないように、彼らに警告していただきたいのです。』  
29 アブラハムは言った、『彼らにはモーセと預言者とがある。それに聞くがよろう。』  
30 金持が言った、『いえいえ、父アブラハムよ、もし死人の中からだれかが兄弟たちのところへ行ってくれましたら、彼らは悔い改めるでしょう。』  
31 アブラハムは言った、『もし彼らがモーセと預言者と共に耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであらう。』

1 イエスは弟子たちに言われた、「罪の誘惑が来ることは避けられない。しかし、それをきたらせる者は、わざわいである。

2 これらの小さい者のひとりりを罪に誘惑するよりは、むしろ、ひきうすを首にかけられて海に投げ入れられた方が、ましである。

3 あなたがたは、自分で注意していないさい。もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、彼をいさめなさい。そして悔い改めたら、ゆるしてやりなさい。

4 もしあなたに対して一日に七度罪を犯し、そして七度『悔い改めます』と言ってあなたのところへ帰ってくれば、ゆるしてやるがよい。

5 使徒たちは主に「わたしたちの信仰を増してください」と言った。

6 そこで主が言われた、「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この桑の木に、『抜け出して海に植われ』と言ったとしても、その言葉どおりになるであろう。

7 あなたがたのうちのだれかに、耕作か牧畜かをする僕があるとする。その僕が畑から帰って来たとき、彼に『すぐきて、食卓につきなさい』と言うだろうか。

8 かえって、『夕食の用意をしてくれ。そしてわたしが飲み食いをするあいだ、帯をしめて給仕をしなさい。そのあとで、飲み食いをするがよい』と、言うではないか。

9 僕が命じられたことをしたからといって、主人は彼に感謝するだろうか。

10 同様にあなたがたも、命じられたことを皆してしまったとき、『わたしたちはふつつかな僕です。すべき事をしただけに過ぎません』と、言いなさい」。

11 イエスはエルサレムへ行かれるとき、サマリヤとガリヤヤとの間を通られた。

12 そして、ある村にはいられると、十人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちどまり、

13 声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。

14 イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行つて、からだを見せなさい」と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。

15 そのうちのひとりは、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰つてきて、

16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。

17 イエスは彼にむかつて言われた、「きよめられたのは、十人ではなかつたか。ほかの九人は、どこにいるのか。神をほめたたえるために帰つてきたものは、この他国人のほかにはいないのか」。

18 それから、その人に言われた、「立つて行きなさい。あなたの信仰があなたを救つたのだ」。